



TITLE:

理想的な医師(1)(随想)

AUTHOR(S):

吉田, 修

CITATION:

吉田, 修. 理想的な医師(1)(随想). 泌尿器科紀要 1976, 22(7): 705-705

ISSUE DATE:

1976-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/122016>

RIGHT:

随 想

理 想 的 な 医 師 (I)

吉 田

修*

どの本棚のどの辺においてあると即座に思い出す本が何冊かは、だれにもあるとおもう。Rochester 大学の Morgan 教授, Engel 教授の共著書 “The Clinical Approach to the Patient” (W.B. Saunders Co. 1969) は、私のそういった本の一冊である。米国のみならず、カナダ、イギリス、オーストラリアの医学生によく読まれている臨床医学入門書であるが、その中に The Qualities of the Ideal Physician という項があり、理想的医師像として8カ条があげられている。医学生むきに書かれたものであるが、専門、機関、地位に関係なく理想的医師のあるべき姿が述べられており、医学生のみならずひろく医師一般にも読んでもらいたいと考えるので紹介する。

The Qualities of the Ideal Physician

He is first and foremost humane.

(彼は、まず何よりも人間性に富む)

He is constantly observant.

(彼は、絶えざる観察者である)

He uses a systematic approach.

(彼は、系統的な追い求めをする)

He knows and understands basic principles.

(彼は、基礎的な原理を知り、また理解している)

He uses reason in all his actions.

(彼は、その行動のすべてを理由づける)

He is aware of the limitations of his own knowledge and of knowledge in general.

(彼は、自分自身の知識ならびに一般的な知識というものの限界のあることを知っている)

He respects the information that comes from the patient.

(彼は、患者からくる情報を尊重する)

He is a perpetual student.

(彼は、たえざる学徒であることを続ける)

カッコ内の訳文は聖路加国際病院の日野原重明博士による。実にうまい訳と思われるので併記したが、以下、各項目について詳しく具体的に説明されている全文をかかげ、私のつたない訳文を記し、いささかの解説をこころみた。

He is first and foremost humane.

The ideal physician deals not simply with the abstraction, disease, but with a fellow being in distress. He relates to his patient with empathy, which implies the ability to understand and appreciate how the patient feels without being distressed himself. The physician appreciates that all that bears on his patient's life, comfort, and happiness is properly a subject for scientific inquiry and observation. To deal with the disease alone and forget the patient is to fail as an able physician.

〔彼は、まず何よりも人間性に富む。理想的な医師は病気という抽象的、観念的なものを取りあつかうのではなく、苦しみ悩んでいる人間を取りあつかう。彼は感情移入 (empathy) をもって患者に接している。感情移入とは、自分自身は苦しみ悩まず、患者の感情を理解し、認識することができることを意味している。彼は、患者の生命、やすらぎ、幸せに関係をもっているすべてのものは、正しく科学的に調べ観察する対象であることを知っている。疾病のみを扱い、患者 (人間) を忘れたのでは有能な医師として失格である。〕

empathy とは心理学用語で、Dorland's Medical Dictionary には、The recognition of and entering into the feelings of another person. とある。しかしもう少し詳しく説明する必要がある。宮城音弥氏の心理学 (岩波小辞典) より抜粋してみると「われわれは、うれしいときに笑うが、他人が笑っているときにもくうれしさ>を感じる。これは、他人の笑い顔・笑い声を知覚してこれに結びついたくうれしさ>の感情を間接に味わうのではなく、直接その表情のうちにう

* 京大教授 (泌尿器科学)

れしさを感じるのである。このように他のもののなかに入りこむのが Lipps のいう＜感情移入＞である。Lipps は＜感情移入＞が極度に行なわれて対象にとけ込んでしまう場合を、とくに＜共感＞と称したが、精神分析の＜感情移入＞は一種の認知であるが、共感＝感情的に他人と同じ感情状態になることをいう」とある。

感情移入 (empathy) をもって患者に接するのであって、共感 (sympathy) で接するのではない点はなかなか含むところがある。empathy と sympathy に一線を画すことは大変むずかしいとは思いますが。

He is constantly observant.

From the time the doctor first meets the patients, or walks into the room, he is studying him and his surroundings to learn clues to his disease, his personality, and the sources of his distress.

〔彼は、絶えざる観察者である。彼は患者にはじめて会った時、または病室へ一歩踏み入れた時から、患者の病気、個性、苦しみの根源、を知る手がかりを求めて患者および患者をとりまくものを注意深く観察し、調べつづける。〕

疾患でなく、疾患をもった人間を、治療するのであるから、病気だけでなく個性、問題の根源を知る必要があり、患者をとりまきもろもろからも情報を得ようにつとめるべきであるというのである。

He uses a systematic approach.

He trains himself in the interview and physical examination, as well as in his thinking, to follow an orderly sequence and not to omit important findings. Yet, he is not inflexible; he is prepared to meet the new or unexpected to adapt his approach.

〔彼は、系統的な追求めをする。彼は問診を行なう場合も、診察を行なう場合も、自己の思考過程におけると同様に正しい順序に従い、重要な所見を見逃さないよう自分自身を修練する。それでいて彼は頑なではなく、常に新しいこと、予期せぬことに対する用意があり、そしてその時は自分の追求め方をそれに適したものに変わる、つまり適応するようにしている。〕

思考過程では常に系統的に approach すべきであり、

診察においても正しいルールにしたがった approach であれば重要な所見を見落すことはない。しかしそれとても flexible であるべきで、頑なに一定の様式を繰返すのはよくないとしている。

He knows and understands basic principles.

He has learned that comprehension of the basic reasoning behind medical concepts and techniques greatly enhances his capacity to apply knowledge and to devise approaches to new and unfamiliar situations.

〔彼は、基礎的な原理を知り、また理解している。彼は医学の概念と技能の背景にある基礎的な理論を理解することは、知識を応用し、新しい、不慣れなものの追求めかたを創り出す能力を大いに高めることを学んで知っている。〕

基礎をしっかりと身につけることは、どの学問においても大切なことである。例えば語学において文字を学び、単語をおぼえ、文法を修得するのは基礎である。そしてはじめて文章を読み書くことができるので、それはすなわち apply knowledge であり、devise approaches to new and unfamiliar situations と同じことである。

He uses reason in all his actions.

Each step in diagnosis and management is thoughtfully considered. He knows that the physician who approaches a problem automatically, or routinely, may fail to help the individual patient.

〔彼は、その行動のすべてを理由づける。彼の診断および処置におけるおのおのの手段は深く思索されている。機械的にまたはおきまりの手順で問題を追求めめる医師は、個々の患者を救いそこなうことがあることを、彼は知っている。〕

“その行動のすべてを理由づける”とは、心すべきことである。専門化、中央システム化が進んでいる現在の医療において、その行動のすべてを理由づけることは困難かもしれない。だからこそ、心すべきであると思う。

(つづく)